



閑静な武蔵野の住宅地に、モダンな数奇屋の「木組の家」が建ちました。

建て主さんは、世界を旅した経験をお持ちの旦那様と趣味の良い若い奥様と小さなお姫様とワンちゃんです。

少し奥まった敷地で、建て方には苦労しましたが、渡辺棟梁はじめ、いつものメンバーが丁寧に仕上げてくださいました。

日本家屋のよさを強調した、のびのびとした下屋があることが特徴です。お茶室にもなる座敷もあって、本来の日本の家の風情を感じるようにという思いで創りました。職方のみなさんご苦労様でした。ご家族のみなさん、どうか末永く大切にお使いください。



下連雀の家

所在地 — 東京都三鷹市  
家族構成 — 夫婦 + 子供 + 犬

木造二階建 専用住宅  
建築面積 — 92.48 m<sup>2</sup> (27.97 坪)  
延床面積 — 128.35 m<sup>2</sup> (38.83 坪)

構造材 — 徳島杉、天竜桧  
梁 — 杉、柱・床 — 桧  
断熱材 — フォレストボード

施工 — 横田木材工事部、渡辺棟梁  
設計 — 松井郁夫建築設計事務所  
写真 — 奈良岡 忠、松井事務所

COMINET  
LIVE

Communication Network for Live

2009 初夏 no. 47

株式会社  
松井郁夫建築設計事務所  
まちづくりデザイン室  
165-0023  
東京都中野区江原町 1-46-12-102/203  
TEL 03-3951-0703 FAX 03-5996-1370  
URL: <http://matsui-ikuo.jp>  
e-mail: [ok@matsui-ikuo.jp](mailto:ok@matsui-ikuo.jp)



ごあいさつ  
初夏の日差しが  
まぶしくなりました。  
いかががお過ごしでしょうか。

ワークショップ「き」組の法人化

創立 2003 年 2 月 以来、みなさまにご愛顧いただきありがとうございます。ワークショップ「き」組が「一般社団法人」として生まれ変わります。

環境性に優れた伝統的な家づくりが見直されている今だからこそ、いままで以上に「進化する木組の家」を、より多くの方々に、サービスできるよう努力いたします。

これまでの木組の丈夫さや、住み心地のよさはもちろん、山と職人と住まい手のみなさんをつなぐ仕組みはそのままです。

新たに木組の家づくりを実践したいと願う実務者をサポートし、伝統的な構法の良さを引き継ぎながら、家族の幸せの器として、デザイン性の高い「き」組の家づくりを全国に展開します。

ワークショップ「き」組にこれからも、変わらぬご愛顧をお願いいたします。詳しくは、次号特集予定。

2009 年初夏 松井郁夫 小林一元 宮越喜彦 松井匠



スイス、ペーター・ツムトールのグラガン邸

## ● 基本的な考え方

ワークショップ「き」組は、住まい手を中心としたつくり手による協働の家づくりです。山や職人や設計者がお互いのつながりをオープンにしながら、価格や仕事の流れがよく見えるようにします。ここから設計と施工の信頼関係をつくります。

山の木が循環し、世代を超えて住み続けられ、大工技術を振るえる家づくりは、みんなが元気になる共存共栄の仕組みです。

## ● 高耐久の躯体をつくる

家を支える柱、土台はすべて4寸以上です。通し柱は、断面欠損を考慮して6寸角、大黒柱は7寸角以上の骨太な架構は、丈夫で長持ちする高耐久の家づくりです。基礎は立ち上がり高さ400mm幅150mm、ベタ基礎。必ず地盤調査を行い、敷地に適した地盤改良を実施します。

## ● 美しく耐震的な家づくり

耐震性能を十分に確保しながら美しい架構をデザインします。耐力壁は足固めと貫と面材を併用してつくります。粘り強く倒壊しない貫工法の見直しです。貫は、地震の時に働く多重のセーフティ機能を持っています。壁量計算ソフトで必要な壁量を割り出します。バランスよく壁を配置することで、開放的で暮らしやすい間取りを実現します。

## ● メンテナンスのしやすさ

住みはじめた家の維持管理をしやすくするためには、主構造（スケルトン）を不変的な木組にして、設備周辺の造作部分（インフィル）を生活の変化に対応できるように計画します。設備系配管の外部との接続は、横抜き配管とし、掃除口を設け、管の取替えにも応じやすくします。



## ● 優しく包みこむ器

素材は無垢材の柱、梁です。床や天井には杉の厚板を使用します。全て潤いのある天然乾燥材です。壁には漆喰を塗ります。無垢の木と漆喰は室内の温度と湿度を調整します。

室内の空気の循環を促すために、吹き抜けをつくり越屋根を設けます。こうして高低差をつくることで通気を助け、自然と空気がまわるようになります。さらに断熱効果を高めながら効率よく冷暖房をすることで、身体を包み込むような温熱環境に優れた家を実現します。

## ● 資産価値を高める

家の図面、保証書の類は第三者機関に保管管理委託します。「メンテナンスガイド」を作成し、役立てて頂きます。完成後には、1年3年5年の点検を実施します。改修の度に履歴を保管し10年、20年ごとにリフォームと履歴更新を繰り返し、100年目には古民家のようなスケルトン再生を目指します。

1. 住宅性能評価を採用し、公的第三者機関の検査記録を整備する。
2. セキュリティと信頼性の確保されたデータサーバーを利用して長期にわたり住宅履歴情報を保管する。
3. グループ内で情報を共有し、情報が保持される仕組みを構築します。

## ● トレーサビリティの実現

山（産地）から木材を直接購入することによって、植林費用が山に返る仕組みを確立しています。産地の状況、伐採時期、乾燥状態、強度などの履歴をバーコード化し、トレーサビリティを実現しています。顔の見える家づくりを産地の生産者から始めています。

## ● 200年住宅の実施

【200年住宅】として採択を受けた建物に課せられた条件と、ワークショップ「き」組の実践する建物の差はわずかでした。

通常の耐震性能の1.25倍が必要でした。

- ①許容応力度設計を実施しました
- ②「足固め」+小さな金物が必要でした
- ③床倍率の確保をしました
- ④屋根構面の強度を高めました

省エネルギー等級を高める。

- ①低炭素化。石油原料の断熱材は使いません。熱損失係数計算で天然断熱材を使用しました
- ②アルミサッシ+ガラスの性能を上げました

その他、排水管のメンテナンスなどは普段から横抜配管と掃除口を設けていたのでOKでした。

長寿命の家づくりは本来、伝統的な民家に備えられた性能でした。

ワークショップ「き」組の家づくりは、伝統的な民家の智慧をとりいれて、常に進化しながら、日本の未来を見つめたいと考えています。

